

令和元年度 提案型協働事業 企画提案概要

No.	団体名	提案 種類	事業名	提案内容	担当課
1	金沢工業大学・Design for the Community	市民 提案	Design a More Attractive Nonoichi:外国人住民にとっても住みやすい街づくりを	「デザイン思考」というアイデアを創造する手法を使い、地域と連携して課題に取り組む。ここでの課題とは、市から与えられたものではなく、外国人住民に直接インタビューを実施し、その声を活かすことであり、これにより真のニーズに応えた情報提供が可能となる。 課題の解決を通して、外国人住民にとって住みやすい街づくりの一端を担うことで、参加学生が地域社会とのかかわりを深め、多言語・多文化の住民との交流を通して異文化理解能力を養い、英語でのコミュニケーション能力を高められることにより、今の日本に必要なグローバルマインドを育む。 「にぎわいの里ののいち カミーノ」がオープンしたことを受け、この施設についてインタビューを実施する。これらの単に英語版を作成するのではなく、外国人の方に積極的に使ってもらえるような施設紹介などを考案する。	市民協働課
2	金沢工業大学 BusStop プロジェクト	市民 提案	「のっティバスどこ」の長期運用にチャレンジ	「のっティバスどこ」システムは、のっティの運行状況を表示するシステムである。このシステムの長期運用を行い、改良を行う。2018 年度の実証実験では、約 2 か月間の運用を行った結果、バスの代車等いくつか問題点が明らかになった。これらの問題を改良しながら、2019 年 6 月から 2020 年 3 月までの 10 か月間で実証実験を行う。 今回の実証実験では、(1)システムの問題、(2) バス停でのバス位置確認の問題、(3) LoRa ネットワーク（低消費電力かつ広いエリアをカバーできる小型通信モジュールを使用したネットワーク）の安定性確保の問題等に取り組む。具体的には、バス停でのバスの位置を確認する低消費電力の LED を用いたバス位置表示システムの開発及びモックアップ（試作品）の制作や、アンケート調査などを実施する予定である。	地域振興課
3	特定非営利活動法人アグリファイブ	市民 提案	石川の旬な野菜を食べる「のの市野菜倶楽部」	「オーガニックファーマーズマーケット@野々市」を活動の核に、野菜のおいしさや農業のことや食に関することを深く知る機会を作る。そして、市内の市民団体などと連携し、旬な野菜を食べる会や農作業を楽しむ会などを実施し、野菜を気軽に料理したり食べたりする倶楽部を組織する。 1. 旬な野菜を使った親子料理教室…夏野菜を使って親子で料理を楽しむ教室を開催する。健康推進課との連動で食生活改善推進協議会のメンバーと実施する仕組みを作る。講師は野々市在住の料理家を予定している。 2. 農家さんとの交流イベント…農家さんの畑で農作業のお手伝いと収穫体験を行う。交流先は市内の有機栽培農家を想定している。 3. 野々市市内で開催しているマルシェの告知を強化…市民の皆さんに農家さんたちと直接出会える場（＝マルシェ）を定例化することが、石川の旬な野菜を食べる入口と考えている。そこで、マルシェの告知チラシの制作と設置を行う。	健康推進課、 産業振興課
4	金沢工業大学 ヤーコンプロジェクト	市民 提案	ヤーコン関係人口でつながる野々市健康ブランドづくり	野々市市の特産品である機能性成分に富む健康食材ヤーコンを普及することでヤーコン関係人口のつながりと、健康でいきいきした地域づくりを通して健康のまち野々市としてのブランド化につなげる地域活性化活動を行う。ヤーコン商品のブランド化に向けたアンケートやヤーコンの将来性のビジョン策定を行う。野々市市内の和菓子屋やレストランと協力してヤーコンを使った商品・料理の開発・提供を行う。合わせてヤーコンの収穫体験や試食会、講演会を開催してヤーコンブランド化に向けた地域住民の認知度を把握する。 成果物としては開発したヤーコン商品やヤーコンの機能性、料理メニューをまとめたパンフレットを作成してブランド力向上を図る。健康で住みやすいまち野々市としてのブランドを確立する一助としてヤーコンを用いた商品のブランド力向上に取り組む。まず地域の町会とも連携し実際にヤーコンを栽培したりヤーコン商品を利用したりしているヤーコン関係人口のアンケート調査を実施する。その上でヤーコンの地域ブランド確立を目指して新商品の開発や商品パッケージデザインの見直しに取り組む。野々市市観光物産協会とも連携し、1 の 1 の物販コーナーでのヤーコン商品の試食販売を行う。合わせてヤーコンの将来性や商品ブランド化に向けた講演会を開催する。	地域振興課
5	カルチャー&サイエンス・コミュニケーション・プロジェクト	市民 提案	4D2U/Mitaka の「語り手」育成活動	国立天文台 4 次元デジタル宇宙プロジェクトで開発された仮想宇宙空間シミュレーションソフトウェア『4D2U/Mitaka』を教材として、市民の「宇宙観」を育む活動を、年間を通じて運営する。本事業は、自ら『4D2U/Mitaka』を操作し国立天文台のコンテンツを楽しむことができる語り手を育成することを目的に計画する。 そこで、語り手育成講座を立ち上げ、野々市市民に対して『4D2U/Mitaka』の認知度を上げる。講座は全 5 回とし、第 1 回は『4D2U/Mitaka』のコンテンツの紹介、第 2 回は『4D2U/Mitaka』のサイエンス CG 制作についての紹介、第 3 回から第 5 回は『4D2U/Mitaka』がセットされているパソコンを用いての操作演習、といった内容である。 この活動を通して市民（中学生以上）に対する『4D2U/Mitaka』による宇宙科学講座を実施し、市民の科学理解増進活動の機会がこれまで以上に増加するものを思われる。また、「語り手」がどのように『4D2U/Mitaka』を操作し、どのように天体を紹介していくかは十人十色である。これを楽しむ方々を増加させ、市民の科学コミュニケーションスキルを高めていき、魅力ある市づくりに寄与する。将来的には我々カルチャー&サイエンス・コミュニケーション・プロジェクトの科学講座にスタッフとして参加し語り手を務めていただく。	産業振興課、 生涯学習課
6	防災・減災プロジェクト SoRA	市民 提案	迷路で災害時の正しい判断 10 秒チャレンジ！	災害時の正しい判断について考えてもらうイベントを開催する。イベントでは迷路を制作し、災害時の避難や防災に関する 2 択のクイズを設置し、回答によって二手に分かれ、正解の場合は景品をゲットして解説後に次の問題に進められるようにし、不正解の場合は行き止まりとなり再び問題に戻ってもらう。回答を選ぶ制限時間は 10 秒とし、限られた時間で判断をするという体験をしてもらう。 クイズ内容は 9 月に行われる野々市市総合防災訓練で地域の人にアンケート調査を行い、その結果を参考に検討する。避難する際のポイントや注意点、災害に対して普段意識していること、防災に関して知りたいことなどの意見を集め、迷路内のクイズに利用する。 また、避難時のフローチャートを作成し、迷路に組み込む。迷路は部屋内にロープを張り、マルチをかけて制作する。迷路のゴールには防災グッズを紹介するブースを設置し、クイズ内容の復習に活用する。	環境安全課